

2011 年度 小委員会活動成果報告

(2012 年 2 月 20 日作成)

| | | | |
|------------------------------|---|---|-------------------------------|
| 小委員会名 | 設計・生産の情報化小委員会 | | 主 査 名：猪里孝司 就任年月：2011 年 4 月 |
| 所属本委員会 (所属運営委員会) | 情報システム技術委員会 | | 委員長名：加賀有津子 |
| 設 置 期 間 | 2011 年 4 月 ～ 2013 年 3 月 | | |
| 設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き) | <p>【設置目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オブジェクト指向型 3D-CAD や BIM による設計・生産のプロセス変化を考える。 ・設計・生産のプロセス変化をもたらす建物情報モデル (BIM) や統合設計 (IPD) 利用の可能性、問題点を検討議論し、実利用への可能性を探る。 ・他産業を含めた各業界の動向を知り、建設界の方向を見極め提案・提言する。 ・委員会活動を通じて得られた情報を分析・整理し広く会員に還元する。 <p>【活動計画】</p> <p>初年度： ・ BIM 活用の推進の方策検討 ・ BIM 関連団体との協調活動 ・ 大会において研究協議会を開催 ・ 情報・システム・利用・技術シンポジウムにおいて活動成果を発表</p> <p>2 年度： ・ BIM 関連団体との協調推進 ・ BIM 活用の提言 ・ 第 14 回 BIM・CAD 利用実態調査を実施 ・ 情報・システム・利用・技術シンポジウムにおいて活動成果を発表 ・ シンポジウム 2013 を開催</p> | | |
| 委員構成 (委員名 (所属)) | <p>委員公募の有無：無</p> <p>主査：猪里孝司 (大成建設) 幹事：榊原克巳 (CI ラボ)、田部井明 (竹中工務店)、中元三郎 (安井建築設計事務所) 委員：安生 暁 (日建設計)、加賀有津子 (大阪大学)、荻谷邦彦 (山下設計)、玉井 洋 (鹿島建設)、能勢浩三 (竹中工務店)、東山恒一 (清水建設)、溝口直樹 (ダイテック)、本江正茂 (東北大学)、山極邦之 (大林組)、山口重之 (東京都市大学)</p> | | |
| 設置 WG (WG 名：目的) | <p>設計・生産の情報化実態調査WG：設計業務における CAD および BIM に利用や IT 化の実態を調査するとともに経年変化を分析し、建築学会および他の諸団体活動の基礎データとして提供する。</p> <p>設計・生産の先端利用技術調査WG：建築設計に関連する情報化技術変革の兆しを捉え変革への対応について調査・研究し、それら先端技術の建築界での導入・普及促進に、学術・技術的見地から寄与することを目的とする。</p> <p>I P D 研究WG：米国建築家協会 (AIA) で提唱された Integrated Project Delivery (IPD、統合プロジェクト推進法) を調査研究し、国内への普及展開の可能性を検討する。</p> | | |
| 2011 年度予算 | 90,000 円 | ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： http://aij.cn.est.nihon-u.ac.jp/modules/seisan3/ | |

| 項 目 | 自己評価 |
|---------------------------|----------------|
| 委員会開催数 | 4 回 (年度内計画を含む) |
| 刊行物 (シンポジウム資料等は 除く) | |
| 講習会 | |

| | |
|--|---|
| <p>催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)</p> | <p>1. シンポジウム 2012 「BIM で設計、教育は変わるのか? -BIM とインターネットを活用した設計コンペからみえたこと-」 参加者数 83 名</p> |
| <p>大会研究集会</p> | <p>1. 研究協議会「BIM はどこまで来ているか」 『情報システム技術部門研究協議会資料：同上』 参加者数 170 名</p> |
| <p>対外的意見表明・パブリックコメント等</p> | |
| <p>目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)</p> | <p>当初計画していた活動目標に基づき、下記の成果を得た。 1. 大会において研究協議会「BIM はどこまで来ているか」を開催した。実務で BIM を活用している講師による事例紹介と議論により、BIM の現状と課題、可能性を共有することができた。 2. 2011 年 9 月に実施されたインターネットと BIM を活用した設計コンペを題材に、設計実務や建築教育における BIM の影響について議論するシンポジウム 2012「BIM で設計・教育は変わるのか?」を開催した。設計コンペに提出された案は前回に比べ高度になり、BIM の活用が進むとともに裾野が広がっていることが分かった。議論では、BIM が設計実務や教育の場で効果を上げていることが説明されるなど示唆に富む意見があった。大阪での開催であったが、予想を上回る参加者があり BIM への関心の高さが分かった。</p> |
| <p>委員会活動の問題点・課題</p> | <p>1. BIM の活用事例やその可能性は各方面で唱えられ、さまざまな団体が推進活動を行っている。現状では、各団体が独自に活動しているが、BIM の影響を考えると関係団体の協調が不可欠と考える。建築学会がその中核を担うべきだと考えるが、微力のためそこまで至っていない。</p> |
| <p>その他</p> | |